

## 検討の視点

第5期科学技術基本計画にある「共創的科学技術イノベーション」の推進のため、科学技術と社会の関係深化について、以下の視点から検討

- ①社会の中の、社会のための科学技術の側面から人文社会科学や市民等とのより緊密な連携が必要ではないか
- ②人文社会科学も含めた学術的な知識に対して、その知識の活用と恩恵を享受するとともに負の影響も受け得る市民等のステークホルダーがどのように関与するか

### ○新たな科学技術の社会実装に係る研究活動における人文社会科学と自然科学の連携の推進について（平成30年2月）

#### 【概要】

- ・共創的科学技術イノベーションの推進には新しい科学的知見や技術を起点とした調整型アプローチと社会問題や社会動向等を起点とした再構成型アプローチが存在
- ・両アプローチが円環的に補完し合いながら社会課題の解決策等を行うことが重要であり、その際、研究開発者や社会などの多様なステークホルダーの相互作用が不可欠
- ・社会課題の特定や科学技術の社会実装に当たっては、人文社会科学的な視点や実践的志向を持った者が主体的にかかわることが重要
- ・これらの人材育成、社会技術的活動の知見、ノウハウ等の系統的な蓄積が必要

### ○今後の科学コミュニケーションのあり方について（平成31年2月）

#### 【概要】

- ・経済社会の変遷と共に科学コミュニケーションのあり方（科学技術基本計画上の位置付け等）も変化
- ・今後、Society5.0やSDGsの達成、社会課題の対応のため科学技術の活用が重視されるのに伴い、科学コミュニケーションが新たな役割を果たす必要がある。また、社会課題解決の過程がもたらす学問の新たな展開の機会を考慮すれば、各学問分野の発展に科学コミュニケーションは大いに寄与
- ・科学コミュニケーションには①知識翻訳②対話・調整③共創のためのコーディネーションの各機能が存在
- ・今後必要となる進化した科学コミュニケーションの担い手の育成が重要であり、国、研究者等が必要な取組を行う